

学習到達チェックシステム 活用ハンドブック

自分の普段の生活について発表できる。



I always **drink milk**. 100%



I usually **watch soccer games**. 80~90%



I sometimes **play basketball**. 40~50%



I never **get the newspaper**. 0%



※他の動作を表す言葉も使って、普段の生活について発表してみよう。



I always **do my homework**. 100%



様々な表現を使って、自分の気持ちや考えを伝えることができる。

左の四つの例文をすべて使って、自分の気持ちや考えを伝えることができる。

どれか一つの例文を使って、自分の気持ちや考えを伝えることができる。

自分の気持ちや考えを伝えることは難しい。

※ 当てはまるところに、一つだけチェックをつけましょう。

○

Contents(目次)

Chapter 1 はじめに

本ハンドブックの概要、「学習到達チェックシステム」の特徴

Chapter 2 チェックシステムの活用方法について

「学習到達チェックシステム」を活用した授業モデル、検証授業での実践例

Chapter 3 チェックシステムの活用までの手順について

ダウンロードして、クラウド上でデータを教員と連動させる方法

[illegible]

クラウド上で教員の端末と共有することで…

出席番号	自分のほしいもの、 なりたいこと、やりたいこと				自分の普通の生活			
	発展	達成	補助	困難	発展	達成	補助	困難
1		○				○		
2		○			○			
3	○					○		
4		○				○		
5		○					○	
6			○			○		
7		○				○		
8		○				○		
9			○				○	

特徴⑤ 児童全員の学習状況が、教員用のチェックシステムで確認することができます。

「児童の学習状況に応じた個に応じた指導」を行うことができます。

個に応じた指導の「指導の個別化」と「学習の個性化」について資料1[※]を参考に、「学習到達チェックシステム」を活用してできることを検討し、次のことができると考えました。そして、検証授業で行った実践例についてはChapter 2を御覧ください。

「指導の個別化」

「学習到達チェックシステム」を教員が活用することで、児童一人一人の学習状況を把握した上で、**支援が必要な児童へ重点的に指導**を行うことができると考えました。また、「学習到達チェックシステム」を児童が活用することで、**自身の学習状況を把握し、自分に合った学習の進め方を考える**ことができると考えました。

「学習の個性化」

「学習到達チェックシステム」を児童が活用することで、学習した表現の音声を聞いたり、活用できる表現を探したり、友達同士で表現や伝える内容を話し合ったりと、児童が自分に合った**学び方を選択**できることにつながると考えました。そして、児童一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を設定できると考えました。

資料1[※] 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に
関する参考資料（令和3年3月版 文部科学省初等中等教育局教育課程課）

(1) 「学習到達チェックシステム」を活用した授業モデル

「学習到達チェックシステム」を活用して、「表現を活用して自分の気持ちや考えを伝え合う学習」と「児童の学習状況を踏まえた個に応じた指導」を積み重ねていく授業モデルを開発しました。

「表現を活用して自分の気持ちや考えを伝え合う学習」は、コミュニケーションの目的、場面、状況を明確にして、毎回相手を変えながらペアトークを行います。

ペアトークとペアトークの間に、「児童の学習状況を踏まえた個に応じた指導」を取り入れ、図1のように「伝え合う学習」、「個に応じた指導」、を交互に積み重ねていきます。

そうすることによって、児童は自分の気持ちや、考えを伝えた後にすぐに自身の課題と向き合い、表現や内容を修正して伝えるようになっていくと考えました。

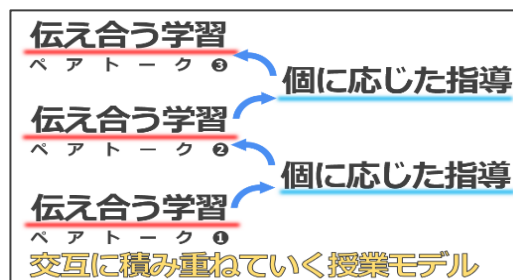


図1 「学習到達チェックシステム」を活用した授業モデル

(2) 検証授業での実践例

検証授業では、**第6学年の外国語科**の授業で上記の授業モデルを行いました。検証授業の学習指導案(略案)と、実際にどの場面で「学習到達チェックシステム」を活用したかについて説明します。

単元目標 新しいA L Tに日本の食事や学校の給食について知ってもらうために、おすすめする給食のメニューなどについて相手に伝わるように自分の気持ちや考えを含めて話すことができる。		
本時の目標 (第6時) A L Tにおすすめする給食のメニューやその理由について、伝えようとする内容を整理した上で話すことができる。		
時間	学習活動	チェックシステムの活用場面
導入	○挨拶をし、月日等の慣れ親しんだ表現をノートに書き写す。 ○Small talk (既習表現を使った友達とのやり取り)	児童による活用例①
展開	○Teacher's Talk (教員がA L Tにおすすめする給食や理由について2つの伝え方の違う短い話を聞き、内容の整理の仕方について知る。)	教員による活用例①
	○「学習到達チェックシステム」を活用した授業モデルを行い、伝えようとする内容を整理した上でおすすめする給食やその理由を紹介する。	
	①ペアトーク (2分間でペア同士による発表)	
	②個に応じた指導 (発表を振り返り、チェックシステムを活用して学習した表現を音声で確認して、学習した表現の活用について考えたり、児童が友達同士で表現や内容について確認し合ったりする。)	教員による活用例② 児童による活用例②
	③ペアトーク (①のペアトークと同内容)	
まとめ	④個に応じた指導 (②の個に応じた指導と同内容)	児童による活用例③
	⑤ペアトーク (①のペアトークと同内容)	
	○活動の振り返りとして、紹介する内容をタブレットに録音してクラウド上で提出する。	児童による活用例④
まとめ	○振り返りをする。(学習を振り返り、次時の見通しをもつ。)	

(3) 教員による活用例

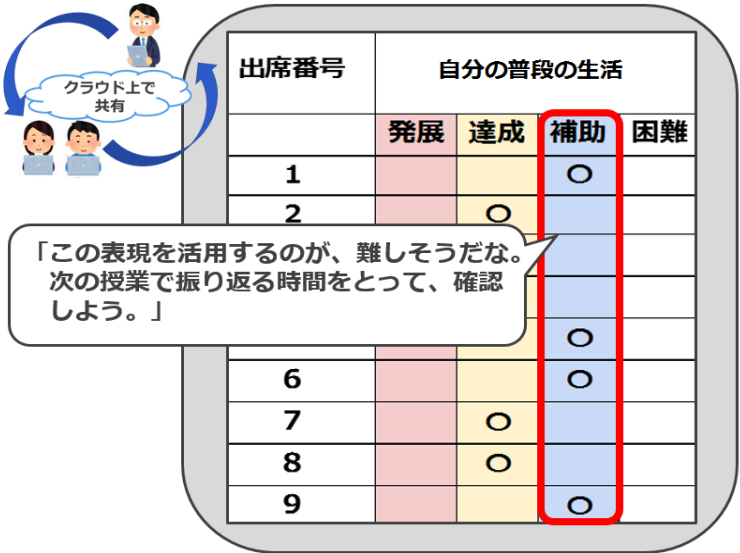
検証授業で行った、教員による活用例を紹介します。

教員による活用例①（図1 授業前に児童の学習状況を確認する。）

検証授業では、「学習到達チェックシステム」を活用して児童の学習状況を授業前に確認しました。そうすることで、**全体的に苦手な表現を把握**することができました。苦手な表現を学級全体で確認するために、授業で扱う表現を変更して指導を行いました。

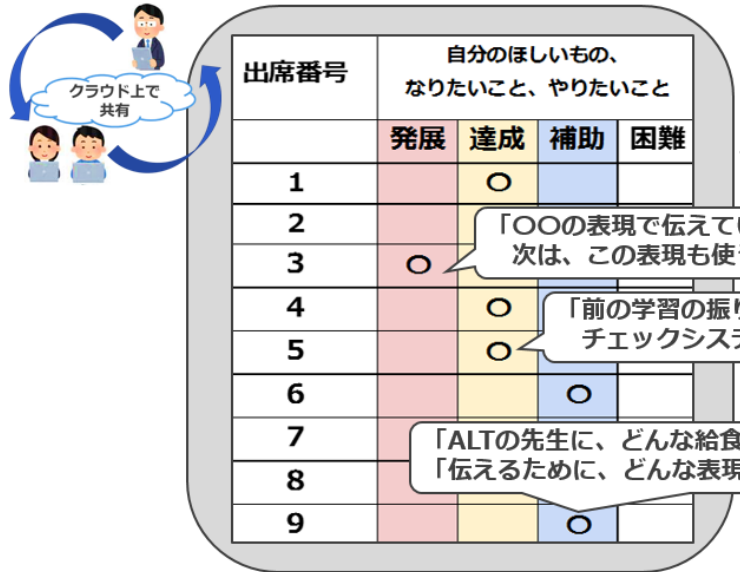
教員による活用例②（図2 児童の学習状況を基に、支援が必要な児童に指導を行う。）

検証授業では、「学習到達チェックシステム」を活用して児童の学習状況を授業前に確認し、支援が必要な児童に重点的に指導を行いました。授業前にALTと児童の学習状況について共有し、授業では支援が必要な児童に個別指導を行いました。児童の**苦手な表現について一緒に確認**したり、**表現の音声を聞くこと**を促したりしました。また、他の表現を活用できないか、活用できる表現を「学習到達チェックシステム」で調べるよう言葉掛けをしました。



学級全体の
学習状況の把握

図1 教員による活用例①



個に応じた指導

図2 教員による活用例②

(4) 児童による活用例 (図3)

検証授業で行った、児童による活用例を紹介します。

児童による活用例① (授業前に学習した表現を確認する。)

検証授業で「学習到達チェックシステム」を導入した際に、「学習到達チェックシステム」を活用して授業前に表現の音声を聞いて、表現を確認する姿が見られました。「学習到達チェックシステム」を活用したことで、児童が確認したい表現について、児童のタイミングで音声を聞いて確認することができました。

児童による活用例②③ (伝え合う学習の後に、表現を確認する。)

検証授業で「伝え合う学習」(ペアトーク)を行った後、児童自身で「学習到達チェックシステム」を活用して表現の音声を聞いていました。児童の振り返りからは、「チェックシステムを使って、前の学習を振り返ることができた。」「自分のペースで学ぶことができた。」などの言葉がありました。児童一人一人によって確認したいことや表現したいことが違うため、「学習到達チェックシステム」を活用することで児童一人一人のペースに合わせた学びにつながりました。

また、「伝え合う学習」と「個に応じた指導」を積み重ねることで、児童自身で活用できない表現に気付く場面がありました。その児童は、伝え合う学習の後、すぐに表現を「学習到達チェックシステム」で調べ、音声を聞いていました。このように、学習を振り返り、児童自身で表現を修正する姿に繋がりました。

児童による活用例④ (学習を振り返る際に、自身で音声を聞いて確認する。)

スピーチを録音して提出する際に、「学習到達チェックシステム」で表現を確認する児童が見られました。本時で自分はどのように伝えていたかを再確認したい様子が伺えます。このように、「学習到達チェックシステム」は表現に不安を感じる児童の支援にもつながりました。



図3 児童による活用例

ダウンロードして、クラウド上でデータを教員と連動させる方法

(1)「学習到達チェックシステム（児童用）」のダウンロード

「学習到達チェックシステム（児童用）」をダウンロードすることで、児童が学習到達チェックシステムを活用することができます。表現の音声を聞いたり、指標に学習状況を入力して、児童自身で学習状況を把握したりすることができます。

(2)「学習到達チェックシステム（教員用）」と児童用との連動

次に、「学習到達チェックシステム（教員用）」をダウンロードした後、児童用との連動の仕方について紹介します。

ステップ① クラウド上に教員用と児童用をアップロードする。

- ・クラウド上に児童用と教員用の「学習到達チェックシステム」をアップロードします。

※本研究では、Google クラウドを活用し、エクセルをスプレッドシートに変換して、アップロードしました。

ステップ② クラウド上で教員用のチェックシステムの設定を行う。

- ・児童用のチェックシステムの URL をコピーして、教員用のチェックシステムに入力します。入力場所は、その児童の出席番号の隣の欄の数式に当てはめていきます。

例 =IMPORTRANGE("出席番号 1 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!C4")

- ・対象児童のエクセルの数式に児童用のチェックシステムの URL を全て入れることで、児童の学習状況の記録がクラウド上で共有され、児童が入力したデータが常に連動されます。

出席 番号	自己紹介 (名前、出身、住んでいる場所、誕生日)				自分の好きなもの 好きなこと			
	発展	達成	補助	困難	発展	達成	補助	困難
1	=IMPORTRANGE("出席番号 1 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!C4")	=IMPORTRANGE("出席番号 1 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!C5")	=IMPORTRANGE("出席番号 1 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!C6")	=IMPORTRANGE("出席番号 1 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!C7")	=IMPORTRANGE("出席番号 1 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!D4")	=IMPORTRANGE("出席番号 1 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!D5")	=IMPORTRANGE("出席番号 1 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!D6")	=IMPORTRANGE("出席番号 1 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!D7")
2	=IMPORTRANGE("出席番号 2 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!C4")	=IMPORTRANGE("出席番号 2 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!C5")	=IMPORTRANGE("出席番号 2 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!C6")	=IMPORTRANGE("出席番号 2 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!C7")	=IMPORTRANGE("出席番号 2 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!D4")	=IMPORTRANGE("出席番号 2 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!D5")	=IMPORTRANGE("出席番号 2 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!D6")	=IMPORTRANGE("出席番号 2 番の学習到達チェックシステム（児童用）の URL","自己チェック!D7")



出席 番号	自己紹介 (名前、出身、住んでいる場所、誕生日)				自分の好きなもの 好きなこと			
	発展	達成	補助	困難	発展	達成	補助	困難
1	○					○		
2		○					○	